

風の盆かなしき唄を闇に溶き

北原昭子

越中富山の八尾のおわら風の盆祭は、江戸の元禄期より始まり、三味線・胡弓・太鼓に合わせ町中を町流しや輪踊り行う。昔は三日三晩踊り明かし、現在も午後の一十時終了にはなっているが、実際は九月一日の二百十日厄日から三日間、地元の踊り子は哀切に満ちた旋律にのって幻想的な踊りを朝まで続ける。この盆唄が夜の風によつて闇に消えて、いよいよ秋の稲刈りが始まる。

(「稲」十一月号 蟬の我慢より)